



会長からの メッセージ

第23回



もの言わぬ土木技術者

もの言わぬ土木技術者、 もの言う土木技術者

土木学会第100代会長

小野 武彦



「男は黙ってサッポロビール」。私が、社
会人になって間もない1970年代に一世
を風靡したキャッチフレーズです。意味す
るところは異なるかと思いますが、当時、

私たちの仕事に対する姿勢を見事に言い表
していると考えていました。そしてここ数
年、いやそれ以前から、土木界のイメージ
アップ、開かれた土木界を目指して積極的
な発信やアピールが必要と言われ続けるた
びに、その必要性は理解できるものの、な
ぜか腑に落ちないところがあったのです。
声高に自分の意見を主張する人を見て辟易
したことも多々ありました。仕事に真摯に
取り組んでいればそれでよいではないか、

そうしていれば社会に認められるのではな
いかと、心のどこかで思っていたからかも
しれません。

そして、東日本大震災の発生以来、土木
界は、人命救助のための道路啓開、港湾啓
開を始めとして、緊急物資の輸送や応急復
旧工事、災害廃棄物処理等、復旧・復興に
総力を挙げてきました。さらには、未曾有
の被害をもたらした福島第一原子力発電所
での事故対応を多くの仲間が今もなお懸命
に行っています。同時に放射性物質で汚染
された地域では、未経験の作業に試行錯誤
を繰り返して、それこそ地面に這いつくばり
ながらの除染作業に従事しています。除染

は、本来ならば、その方面において専門的
な経験のある企業が対応する作業との意見
もありましたが、数多くの作業員や機械を
広範囲に展開するとともに、さまざまな状
況下におかれている住民の皆様と個別に丁
寧な対応をする必要があることから、長年
にわたって培ってきたマネジメント力が欠
かせないとして土木界を挙げてお応えして
いるところです。

もちろん、その業務遂行の過程における
不適切な処理を指摘されているこのたびの
事象に対しては事実関係のいかに関わら
ず、報道を真摯に受け止めなければならま
せん。しかし、その一方で、土木界に対す
る被災地域での多くの方々の感謝の言葉が
あることは報道も少なく、あまり知られる
ことはありません。では、なぜ私たちはこ
とさらに批判的ともいえる報道に耐えて
黙々と仕事をしているのでしょうか。

それはひとえに土木技術者の使命感であ
り、それが土木の魅力であるからだと思う
のです。土木の魅力としては、「感謝される

喜び」「自然との協調とバイオニア精神と
ロマン」「後世に残る土木遺産をつくる」
「文化創造の総合工学」「未来の創造」など
が挙げられますが、今まで多くの場で議論
された中では、「人命を守る」ことへの使命
感」が最も当たっていると感じられます。
また、明治以来、社会資本整備に尽力した
多くの技術者の、国民のため、国家のため
といった気概を知らず知らず受け継いで
きたことが、もの言わぬ土木技術者を育て
てきたのかもしれない。

今の時代、私たちの果たしてきた役割に
誇りを持ち、健全な建設産業を目指すため
に何を為すべきかと自問したとき、土木技
術者の本当の姿を多くの人に理解してい
たくと共に、黙々と真摯に職務を全うして
くれている多くの皆さんに応えるために、
まずは、私がもの言わぬ土木技術者から訣
別し、もの言う土木技術者にならねばと思
うのです。皆さんにも、ここぞという時に
は、もの言う土木技術者になっていただき
たいと思います。